

インターネット上における人権問題

2月25日(水)午後7時30分から今年度第2回目の社会同和教育講座を開催しました。平日の夜の開催となりましたが、多数の参加者がありました。

反差別・人権研究所みえの調査・研究員、中村尚生さんを講師としてお招きし、「今、ネット空間で起こる問題を考える～現実世界と仮想空間で起こるモラルハザード～」という演題で、近年問題となっているインターネット上における人権問題について講演をしていただきました。

講演では、「現在の若者がパソコンからではなくスマートフォンから直接的にインターネットを利用することができるようになったため、インターネットの利用に関するルールやモラルを学ぶ機会が少なくなってきた。また、さとり世代と呼ばれる現在の若者は誰かに認められたいという欲求が強く、SNS(ソーシャルネットワーキングシステム)に投稿をし、それを見た人からのコメントがあることによって満足をするというような傾向にある。誰かにかまって欲しいという欲求とスマートフォンの普及によってインターネットへの接続がより容易になっていることが若者のネット依存を進めている。こうした時代背景から、SNSを使用した悪質な書き込みやいじめ、事件が発生するようになり、今後は若者の自尊心を育てること、加害行為を行っていることに、疑問や違和感を感じさせることが大切である。」と語られました。

また、インターネット上で部落問題についてさまざまな書き込みがされていることについて触れ、偏見や思い込みがインターネット上に書き込まれることによって、



不確かな情報に流され、マイナスイメージを持つ人が増え、それがかわり合いを持つ悪いという意識を生んでいることを解説してくれました。

本当に必要な情報発信かを見極めて活用していきたいと感じました。

